

出来島駅(阪神なんば線)

出来島から大和田をめぐる

千船駅(阪神本線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.001 その3 No.101

阪神出来島駅

出来島新田は、島下郡福井村(現大阪府茨木市)の倉橋屋・彦坂四郎兵衛が、元禄元年(1688)に開発した新田です。出来上がりの状態がよかったから出来島と呼ばれたそうです。

①五社神社

中島新田(神崎川対岸のあたり)を開発する際、元禄元年(1688)に五社五柱の神を勧請しました。のちの神官・津田常則は「悪しきくさ(腫物)を救い治むべし」という神勅を受け、その靈験が評判になり、五社神社は「城島のくさ神社」といわれるようになりました。



②彦坂四郎兵衛の墓

出来島を開発した彦坂四郎兵衛は、いまでも出来島墓地に眠っています。この墓地には、織田信長に反旗を翻して討ち死にした荒木村重の霊を慰める無念地藏もあります。



③大和田街道

▼中之島から尼崎・大物に通じる

旧道で、大正15年(1926)に淀川大橋が完成して新国道ができるまでは大坂から中国街道、山陽道へ向かう幹線道路でした。地元の人々は梅田街道とも阪神街道とも旧国道とも呼んでいました。

④船溜まりと鯉つかみ

かつては神崎川から分流して大和田川が流れていました。分流地点にあるのが、いまの船溜まりです。このあたりは江戸時代、鯉の手つかみ漁が盛んで「大和田の鯉の手つかみ」と呼ばれていました。一度に6匹の鯉をつかむ技の持ち主がいて殿様の前で実演し、鯉屋六兵衛の名ももらったそうです。大和田川には大和田街道に新千船橋が架かっていましたが、それは鉄橋の初代心齋橋が移設されたもので、その親柱が大和田住吉神社に残っています。

⑤神崎川

そもそも淀川とは別の水系ですが、淀川の洪水を防止するために、延暦4年(785)、和気清麻呂が淀川と合流させる工事を行いました。そのために京都から大坂湾へ出る航路は神崎川回りが最短コースになり、大和田付近も大いに賑わいました。

⑥大和田住吉神社

「和田」は海という意味で、古代から大和田には美しい海岸がありました。万葉集に「浜清く浦なつかしき 神代より 千船の泊る 大和田の浦」(詠み人知らず)という歌が残されています。「千船」という名前もここから出ました。住吉神社は海之神様です。元暦2年(1185)、義経が平家を四国へ追い詰めた戦いで、ここで必勝を祈願しました。

阪神千船駅

